

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)				
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
1 学期	4	8	明治維新	なぜ日本ではほかのアジア諸国に先駆けて、近代化が進んだのかを理解する。	・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解している。	・明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
			日清・日露戦争と近代産業	近代化を進める中で、なぜ日本は中国やロシアと戦争をすることになったのかを理解する。	・日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	・議会政治や外交の展開、近代化をもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
		6	4	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦はなぜ起こり、世界と日本にどのような影響を与えたのかを理解する。	・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協定の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。	・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・第一次世界大戦前後の国際情勢について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
				大正デモクラシーの時代	なぜ日本で民主主義の風潮が高まったのかを理解する。	・我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きから、なぜ民主主義を求める風潮が高まったかを理解している。	・世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
	5	5	世界恐慌と日本の中国侵略	経済情勢が変化する中、日本はどのようにして日中戦争に突入したのかを理解する。	・経済的世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
			6	4	第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦はなぜ起こり、世界と日本にどのような影響を与えたのかを理解する。	・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・第二次世界大戦と人類への惨禍について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
					戦後日本の出発	戦後の諸改革は、日本の政治や社会にどのような影響を与えたのかを理解する。	・我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。	・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・日本の民主化について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	7	5	冷戦と日本の発展	冷戦の中で、なぜ日本は経済成長を遂げることができたのかを理解する。	・冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ・高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
			3	3	新たな時代の日本と世界	より良い社会を作るために、これからどのようなことが必要とされるのかを考える。	・国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	・国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・日本の経済の発展とグローバル化する世界について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
					現代社会の特色と私たち	私たちの生きる現代社会にはどのような課題があるのかを理解する。	・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られることについて理解している。	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、情報化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	・私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
9	3	私たちの生活と文化	私たちの生活において、なぜ多様な文化を大切に必要があるのかを理解する。	・現代社会における文化の意義や影響について理解している。	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	・文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。			
		現代社会の見方や考え方	現代社会の課題を解決するために、どのような見方・考え方が大切にされているのかを理解する。	・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 ・人間は本来社会的存在であることに基づき、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。	・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	・現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。			

2 学期	10	6	人権と日本国憲法	日本国憲法が大切にされてきたのはなぜなのかを理解する。	・人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、民主主義及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法が大切にされてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	・日本国憲法が大切にされてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		7	人権と共生社会	日本国憲法では人権はどのように保障されているのかを理解する。	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	・人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		4	これからの人権保障	新しい人権が認められてきたのはなぜなのかを理解する。	・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	・社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
	11	7	現代の民主政治	民主政治では、なぜ政治に参加することが重要なのかを理解する。	・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		10	国の政治の仕組み	国の政治では、なぜ権力の分立が必要なのかを理解する。	・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのありしや政党の役割を理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	・国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		7	地方自治と私たち	地方自治を発展させるために、私たちに何ができるのかを考える。	・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	・地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
	12	6	消費生活と経済	消費活動では、なぜ消費者の自らが求められるのかを理解する。	・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		5	生産と労働	生産活動では、なぜ労働者の権利を保障することが重要なのかを理解する。	・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法精神について理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
	3 学期	1	6	市場経済の仕組みと金融	市場と金融の動きは、なぜ私たちの生活にとって重要なのかを理解する。	・市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。 ・現代の生産や金融などの仕組みや動きを理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
			4	財政と国民の福祉	国民の福祉にとって、なぜ財政が重要なのかを理解する。	・社会資本の整備、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。 ・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きを委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
			4	これからの経済と社会	これからの経済と社会のために、私たちに何ができるのかを考える。	・公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きを委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
		2	6	国際社会の仕組み	国際社会で生まれた様々な仕組みは、どのような役割を持っているのかを理解する。	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国間の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。 ・領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国家や国際連合、地域主義などの国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現している。	・主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心をもち、主体的に社会に関わろうとしている。
6			さまざまな国際問題	国際社会の様々な問題を解決するための国際協力に、どのような活動が必要なのかを理解する。	・貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現している。	・国際社会のさまざまな問題について関心をもち、日本の果たすべき役割を主体的に考え、また、個人として主体的に社会に関わろうとしている。	
4			これからの地球社会と日本	持続可能な地球社会を創るために、何ができるのかを考える。	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、国家間の相互の尊重と協力、各国間の相互理解と協力が大切であることを理解している。	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力に主体的に関わろうとしている。	
3		4	より良い社会を目指して	持続可能な社会の形成者として、社会の課題を解決するために自分にできることを考える。		・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述している。	・私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
		合計	140	評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト、ワークシート	定期考査、ワークシート、課題への取り組み	